

福島県立磐城高等学校 施設管理業務委託契約書

発注者 福島県 と 受注者 _____ とは、発注者の校舎、附属建物及び校地（以下「校舎等」という。）の管理について、次の条項により委託契約を締結する。

（総則）

第1条 発注者は、次に掲げる業務（以下「委託業務」という。）を受注者に委託し、受注者は、これを受託する。

- (1) 業務内容 別紙仕様書のとおり
- (2) 委託期間 平成31年4月27日から
令和2年3月31日まで

（委託料）

第2条 発注者は、委託業務に要する費用（「委託料」という。）として、
総額 _____ 円（うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 _____ 円）を受注者に支払うものとする。

- 2 委託料は、受注者が業務実施実績により、毎月、前月分の委託料を発注者に対して請求するものし、発注者は内容を審査の上、請求書を受理した日から30日以内に支払うものとする。
- 3 総額はあくまで予定金額とし、最終的な予定金額と実績金額との差額は、年度末に精算する。

（権利義務譲渡の禁止）

第3条 受注者は、この契約から生ずる権利又は義務の全部又は一部を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ発注者の書面による承認を受けたときは、この限りではない。

（発注者の監督等）

第4条 発注者は、受注者の行う委託業務について必要な事項を受注者と協議して決定することができる。

（施設提供及び貸与品）

第5条 発注者は、受注者に対して、この契約の履行に必要な範囲で施設を無償で使用させ、及び必要な物品を貸与するものとする。

- 2 受注者は、前項の規定による施設の使用及び物品の貸与に当たっては、善良な管理者の注意をもって施設及び貸与品を管理しなければならない。
- 3 受注者の故意又は過失によって、施設及び貸与品が滅失し、若しくは損傷し、又はその返還が不可能となったときは、原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。
- 4 受注者は、貸与品を委託業務目的外に使用し、発注者に損害を与えた場合は、その損害を賠償しなければならない。

(変更又は中止の承諾)

第6条 受注者は、受注者の責めに帰さない理由により、業務を提供することができなくなったときは、あらかじめ発注者の承認を得て、当該理由の止むまで委託業務を変更し、又は中止することができる。

(契約の解除)

第7条 発注者は、次の各号の一に該当するときは、この契約の全部又は一部を解除することができる。

(1) 履行期限までに委託業務が完了しないとき又は委託業務を完了する見込みがない認められるとき。

(2) 第3条の規定に違反したとき。

(3) 受注者が次のいずれかに該当するとき。

ア 役員等（契約の相手方が個人である場合にはその者を、契約の相手方が法人である場合にはその役員又はその支店若しくは常時契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員（以下この号において「暴力団員」という。）であると認められるとき。

イ 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ウ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

オ 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

カ 下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約に当たり、その相手方がアからオまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

キ 契約の相手方が、アからオまでのいずれかに該当する者を下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約の相手方としていた場合（カに該当する場合を除く。）に、契約権者が契約の相手方に対して当該契約の解除を求め、契約の相手方がこれに従わなかったとき。

(4) 前3号の一に該当する場合を除く他、この契約に違反しその違反によって契約の目的を達成することができないと甲が認めるとき。

(契約が解除された場合等の違約金)

第8条 次の各号のいずれかに該当する場合には、受注者は違約金として契約金額又は契約解除部分相当額の10分の1を発注者に納付しなければならない。又、契約解除により発注者に損害を及ぼしたときは、発注者が算定する損害額を受注者は発注者に納付しなければならない。ただし、天災地変、不可抗力等受注者の責めに帰すことのできない事由による解除の場合は、この限りでない。

(1) 前条の規定によりこの契約の全部又は一部が解除された場合

(2) 受注者がその債務の履行を拒否し、又は、受注者の責めに帰すべき事由によって受注者の債務について履行不能となった場合

2 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項第2号に該当する場合とみなす。

(1) 受注者について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成16年法律第75号）の規定により選任された破産管財人

(2) 受注者について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成14年法律第154号）の規定により選任された管財人

(3) 受注者について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定により選任された再生債務者等

(談合による損害賠償)

第9条 発注者は、受注者が次の各号の一に該当するときは、第7条に規定する契約の解除をするか否かを問わず、賠償金として、契約金額の10分の2に相当する額を請求し、受注者はこれを納付しなければならない。ただし、第1号又は第2号のうち命令の対象となる行為が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第2条9項の規定に基づく不公正な取引方法（昭和57年公正取引委員会告示第15号）第6項で規定する不当廉売に当たる場合その他発注者が特に認める場合はこの限りでない。

(1) 公正取引委員会が、受注者に違反行為があったとして、独占禁止法第49条の規定による排除措置命令を行い、当該排除措置命令が確定したとき。

(2) 公正取引委員会が受注者に違反があったとして、独占禁止法第62条第1項の規定による課徴金の納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき。

(3) 受注者（受注者が法人の場合にあっては、その役員又はその使用人）に対し、刑法（明治40年法律第45号）第96条の6の規定による刑が確定したとき。

2 前項の規定は、この契約の履行が完了した後においても適用するものとする。なお、発注者が受けた損害額が前項の規定により計算した賠償金の額を超える場合において、発注者は、その超過分に対して賠償を請求することができるものとし、受注者はこれに応じなければならない。

(秘密の保持)

第10条 受注者は、委託業務の処理上知り得た発注者の秘密及び第三者の秘密を他人に漏らしてはならない。委託期間終了後も同様とする。

(個人情報の保護)

第11条 受注者は、この契約による事務を処理するため個人情報を取り扱うに当たっては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

(報告)

第12条 受注者は、毎日の委託業務を終了したときは、直ちに業務日誌を作成し、発注者に提出するものとする。

(契約の変更等)

第13条 発注者は、必要があるときは、この契約の内容を変更し、または一時中止させ、若しくはこれを打ち切らせることができる。この場合において、契約金額を変更する必要があるときは、発注者と受注者とが協議してこれを定めるものとする。

2 前項の場合において、受注者が損害を受けたときは、発注者は、その損害を賠償しなければならない。この場合における賠償額は、発注者と受注者とが協議して定めるものとする。

(協議)

第14条 この契約に定めのない事項については、必要に応じて発注者と受注者とが協議の上定めるものとする。

(紛争の解決方法)

第15条 前条の規定による協議が整わない場合、この契約に関する一切の紛争に関しては、発注者の所在地を管轄とする裁判所を直轄裁判所とする。

この契約の締結を証するため、この契約書2通を作成し、発注者及び受注者記名押印のうえ、各自1通を保有するものとする。

平成 年 月 日

発注者 福島県いわき市平字高月7番地
福島県
福島県立磐城高等学校長 阿部 武彦

受注者

別記

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1 受注者は、この契約による業務（以下「業務」という。）を行うに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう個人情報を適正に取り扱わなければならない。

(秘密の保持)

第2 受注者は、業務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。なお、この契約が終了した後においても、同様とする。

2 受注者は、業務に従事している者に対し、当該業務に関して知り得た個人情報をその在職中及び退職後においてみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならないことなど個人情報の保護に関して必要な事項を周知するものとする。

3 受注者は、特定個人情報（福島県個人情報保護条例第2条第6号に規定する特定個人情報をいう。以下同じ。）に関する内容を含む業務を行うに当たっては、当該業務に従事する者を明確化し、当該従事者以外の者には特定個人情報を扱わせないこととともに、当該従業者に個人番号（死者に係るものを含む。以下同じ。）を含む特定個人情報の保護に関する研修等をするなど、適切な教育を施すものとする。

(収集の制限)

第3 受注者は、業務を行うために個人情報を収集するときは、当該業務の目的を達成するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。

(目的外利用・提供の禁止)

第4 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、業務に関して知り得た個人情報（特定個人情報を除く。）を契約の目的以外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

2 受注者は、業務を行うために収集した特定個人情報については、番号法第19条各号（第7号を除く。）に掲げられたものについて発注者が第三者への提供を指示した場合を除き、いかなるときであっても契約の目的以外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

(適正管理)

第5 受注者は、業務に関して知り得た個人情報（特定個人情報を除く。）の漏えい、滅失及びき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 受注者は、業務に関して知り得た個人番号を含む特定個人情報の漏えい、滅失及びき損の防止その他の特定個人情報の適切な管理のために特定個人情報の適正な取扱いに関

するガイドライン（行政機関等・地方公共団体等編）（平成26年12月18日付けで特定個人情報保護委員会が定めたもの）（別添）特定個人情報に関する安全管理措置（行政機関等・地方公共団体等編）の規定に基づき必要な措置を講じるとともに、当該特定個人情報を扱う従業者に対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。

（複写・複製の禁止）

第6 受注者は、発注者の承諾があるときを除き、業務を行うために発注者から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

（作業場所の指定等）

第7 受注者は、業務のうち個人情報（特定個人情報を除く。次項において同じ。）を取り扱う部分（以下「個人情報取扱事務」という。）について、発注者の指定する場所で行わなければならない。

2 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、前項の場所から業務に関し取り扱う個人情報が記録された資料等を持ち出してはならない。

3 受注者は、業務において特定個人情報を取り扱う場合は、発注者の指定する場所で業務を行うとともに、漏えいすることがないよう厳重に保管しなければならない。

4 受注者は、発注者の指示により特定個人情報を持ち出しをする場合又は災害発生時その他の緊急かつやむをえない場合を除き、いかなる場合も発注者の指定する場所から特定個人情報を持ち出してはならない。

（資料等の返還等）

第8 受注者は、業務を行うために発注者から提供を受け、又は自らが収集した個人情報が記録された資料等をこの契約の終了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは、この限りでない。

2 受注者は、発注者から提供を受け、又は自らが収集した個人情報が記録された資料等（原本であるか第6により作成した複写又は複製であるかを問わない。）の一切をこの契約の終了後直ちに発注者に返還し、若しくは引き渡し、又は受注者が廃棄するものとする。受注者が当該資料等（紙に印刷されたもの及び電子媒体等に記録したもの。）を廃棄する場合、受注者は当該特定個人情報をいかなる手段でも復元又は判読が不可能な方法により廃棄するとともに、当該廃棄に係る記録を保存することとし、当該廃棄処理を行ったことの証明書等を発注者に提出して発注者の確認を受けなければならない。

（事故発生時における報告）

第9 受注者は、この契約に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれがあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。

2 この契約に係る特定個人情報の取り扱いについて、番号法に違反した事案又は番号法違反のおそれがある事案が発覚した場合、受注者は、前項の規定による発注者への報告のほか、事業者における特定個人情報の漏えい事案等が発生した場合の対応について

(平成27年特定個人情報保護委員会告示第2号)の規定による措置を講ずるよう努めるとともに、発注者及び特定個人情報保護委員会の指示に従うものとする。

- 3 前項の場合において、発注者は独立行政法人等及び地方公共団体等における特定個人情報の漏えい事案等が発生した場合の対応について(平成27年特定個人情報保護委員会告示第1号)、管理運営基準その他の関係規程に基づく措置を講ずるものとする。

(調査等)

第10 発注者は、受注者が業務に関し取り扱う個人情報の管理状況等について、実地に調査し、又は受注者に対して必要な報告を求めることができる。

- 2 発注者は、受注者が業務に関し取り扱う特定個人情報の管理状況等について、業務の契約に係る第7の第3項の規定により指定した場所等に立入って調査するなどの調査ができるほか、受注者に対して当該契約の遵守状況に関して必要な報告を求めることができる。

(指示)

第11 発注者は、受注者が業務に関し取り扱う個人情報の適切な管理を確保するために必要な指示を行うことができ、受注者はこの指示に従わなければならない。

(再委託の禁止)

第12 受注者は、発注者の承諾があるときを除き、個人情報取扱事務を第三者に委託してはならない。

- 2 受注者は、発注者の承諾に基づき個人情報取扱事務を第三者に委託するときは、この契約により受注者が負う個人情報の取扱いに関する義務を再委託先にも遵守させなければならない。

(損害賠償)

第13 受注者又は受注者の従事者(受注者の再委託先及び受注者の再委託先の従事者を含む。)の責めに帰すべき事由により、業務に関する個人情報の漏えい、不正利用、その他の事故が発生した場合、受注者はこれにより第三者に生じた損害を賠償しなければならない。

- 2 前項の場合において、発注者が受注者に代わって第三者の損害を賠償した場合には、受注者は遅滞なく発注者の求償に応じなければならない。

(契約解除)

第14 業務に関する個人情報について、受注者による取扱いが著しく不適切であると発注者が認めたときは、発注者はこの契約の全部又は一部を解除することができる。この場合の違約金は契約書本文の定めるところによる。

施設管理業務委託仕様書

- 1 委託業務場所 福島県いわき市平字高月7 福島県立磐城高等学校地内
- 2 業務実施期間 平成31年4月27日から令和2年3月31日までの発注者の指定する日（別紙「平成31年度施設管理業務計画表」のとおり）
ただし、学校行事等により実施日に変更が生じる場合は、前月末までに発注者は書面により受注者に通知するものとする。
- 3 業務実施日数 年間183日
- 4 業務実施時間 業務実施時間は、原則として次のとおりとする。
朝：午前7時30分から午前8時00分まで
夕：午後6時45分から午後7時15分まで
- 5 委託業務内容
次の施設管理業務を行う。
 - (1) 校舎の生徒昇降口及び職員の出入口の施錠
 - (2) 校舎等の窓、扉及び戸の施錠の確認
 - (3) 室内の異状の確認
 - (4) 暖房器具類の消火の確認
 - (5) 文書の受領、電話その他により通報される学校業務の受信、外来者の応接及び関係職員への連絡
- 6 業務従事者
受注者は、業務従事者について発注者に文書により報告し、病気等により交代するときは事前に発注者に連絡するものとする。
委託業務実施にあたっては、教育機関にふさわしい服装と態度を要する。また、受託者であることを明示するものを身に付けることとする。
- 7 貸与物品 業務等に当たり必要な施錠用鍵等は、発注者が貸与する。
- 8 契約金額総額の積算根拠
$$\{(1 \text{時間あたりの人件費}) \times (1 \text{日あたりの実施時間}) + (1 \text{日あたりの交通費})\} \times (\text{年間実施日数}) + \text{消費税及び地方消費税} = \text{総額}$$
- 9 1時間あたりの人件費単価及び1日あたりの交通費単価
人件費 円（税抜） 交通費 円（税抜）

1 0 当月の請求額の算出方法

{(1時間あたりの人件費) × (1日あたりの実施時間) + (1日あたりの交通費)}
× (当月の実施日数) + 消費税及び地方消費税 = 当月の請求額

1 1 労働関係法令遵守状況の確認

受注者は、「福島県庁舎等維持管理業務委託契約における労働関係法令遵守の確認等に関する要綱」第5条に基づき、発注者へ「労働関係法令の遵守状況に関する報告書」を、契約締結後、速やかに提出しなければならない。